



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ NEW
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（12 月月報） NEW



（調査週）平成 25 年 第 4 週 1 月 21 日（月）～1 月 27 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

| 順位 | 疾患 | 定点当り | 奈良県 | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|-----|-----|-----|----|
| 1 | インフルエンザ | 22.98 | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.26 | →～↓ | →～↓ | → | ↓ |
| 3 | 水痘 | 0.83 | →～↓ | → | →～↓ | ↓ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 0.71 | → | ↑ | →～↓ | ↓ |
| 5 | RS ウイルス感染症 | 0.49 | →～↓ | →～↓ | →～↓ | ↓ |

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は716例で、前週報告の426例から激増。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（276→577例）が、激増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（18例）は、増加。水痘の報告数（16例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（9例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（89例）は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；272例、郡山HC管内；305例の計577例、定点当たりの報告数は21.37だった。眼科定点と基幹定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内ともすべてなかった。

（村井 記）

県北部外来状況 インフルエンザは流行期に入っています。乳児から老人まで感染者がみられます。迅速検査ではA型が大部分で、精密検査ではAH3N2の報告をうけています。症状は軽度の方が多い印象です。ワクチン既接種者の罹患者は5分の1程度で、症状も抑えられています。感染性胃腸炎は中学生以上が大半でこちらも症状は軽度です。保育園児で水痘が流行してきました。RSウイルス感染症も数は少なくなりましたがでています。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、443例から687例と増加した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症・A群溶連菌咽頭炎の順であった。インフルエンザは、341例から573例と急増している。定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、15.50から26.05と増加し、県全域注意報の中で最も高く、さらに葛城保健所管内は33.73と、警報の域に入った。感染性胃腸炎は、76例から86例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は増加。インフルエンザが急増。A型がやや多いがB型もほぼ同程度に流行中。乳幼児も増加してきた。軽症傾向で、発熱後一旦無熱～微熱になった後の再検査で陽性判定の例もあり通学・通園に注意が必要。経過中、1～2回の嘔吐がある例もある。感染性胃腸炎が併せて流行中。嘔吐が主でノロ様であるが幼児の検査では陽性例は少ない。乳児でRS気管支炎が2例続いた。昨年暮れより軽症の印象。その他水痘が少し。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第3週→第4週)は93例→133例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ(65例→114例)、②感染性胃腸炎(14例→9例)、③突発性発疹(0例→4例)、④RSウイルス感染症(3例→2例)、④流行性耳下腺炎(1例→2例)、⑥A群溶連菌咽頭炎(4例→1例)、⑥水痘(3例→1例)であった。

(柳生 記)

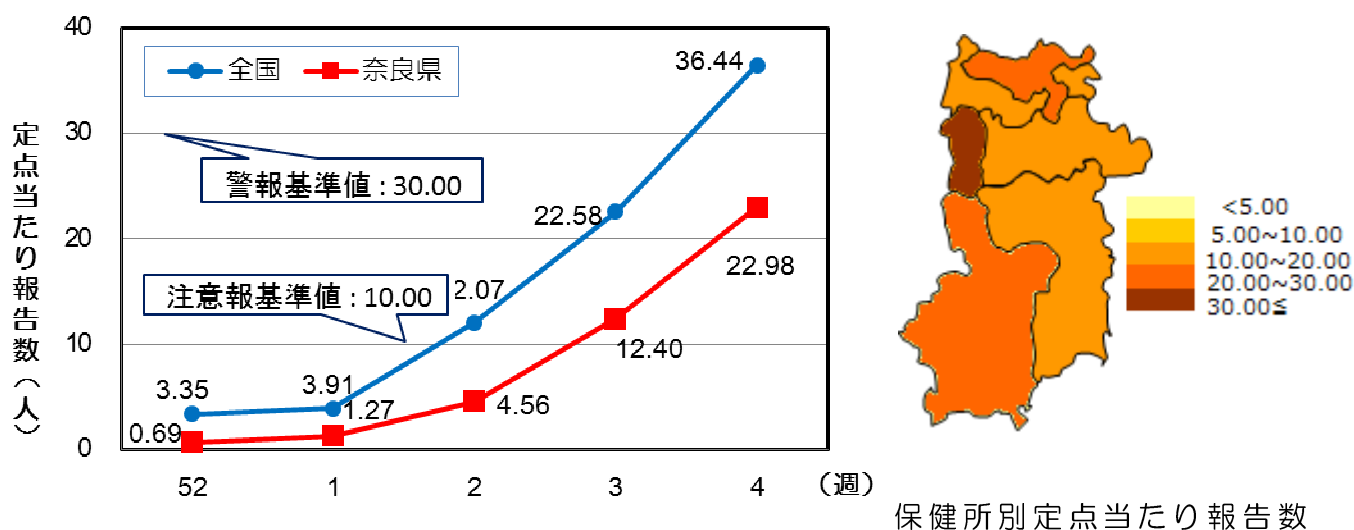
県南部外来状況 当院インフルエンザの状況は第3週から増加し、第4週でピークとなり、今週第5週では早や減少の傾向となっている。迅速検査で全てA型。流行初期のウイルス検査では全てA/H3N2(香港)であった。祖母から感染した2ヶ月の双胎乳児例もあったが37度台の発熱が1,2日程度で軽症経過であった。同時に感染した母親は高熱が出たが抗ウイルス剤が著効した。感染性胃腸炎(ノロ疑い)例もあるが少なくなった。中にはキャン

ピロバクター例もあり。インフルエンザで初期に嘔吐を認めたものもあった。RS ウイルス感染症は少ないが続いて見られる。A 群溶蓮菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎が少し。アデノウイルス感染症もあった。追。昨年第 49 週で 1 日置きの二峰性発熱と二峰目に発疹を伴った姉弟例は、エコー 9 型ウイルスであった。

(山本 記)

《流行感染症情報：インフルエンザ》

インフルエンザの定点当たり報告数は、奈良県全体では 12.40 から 22.98 へと、大幅に増加しました。全国値も 36.44 になり、増加が続いています。



【月報告対象感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)発生状況(12月月報)】

平成 24 年 12 月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下のとおりです。

・STD 患者数 (人)

| 疾患名 \ 報告月 | 12 月 | | 前月 (11 月) | |
|---------------|------|----------|-----------|----------|
| | 報告数 | 定点当たり報告数 | 報告数 | 定点当たり報告数 |
| 性器クラミジア感染症 | 15 | 1.67 | 3 | 0.33 |
| 性器ヘルペスウイルス感染症 | 3 | 0.33 | 1 | 0.11 |
| 尖圭コンジローマ | 3 | 0.33 | 3 | 0.33 |
| 淋菌感染症 | 9 | 1 | 2 | 0.22 |

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

| 疾患名 \ 報告月 | 12月 | | 前月（11月） | |
|-------------------|-----|--------------|---------|--------------|
| | 報告数 | 定点当たり 報告数 | 報告数 | 定点当たり 報告数 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 34 | 5.67 | 32 | 5.33 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 11 | 1.83 | 21 | 3.50 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 0 | 0 | 2 | 0.33 |
| 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（感染症情報センター 記）



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm